

【青井地区】『復興まちづくりの方向（更新案）』について ～第4・5回懇談会の意見概要②～

□は方向案の柱です。黄色網掛け箇所が第4・5回地区別懇談会における参加者の主な意見です。

(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)

取組みの柱		具体的取組み(案)
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生	【住まい再建】	□安全性を高める建て方の誘導 □災害公営住宅の導入検討
	【コミュニティ再生】	□地域の集会所等の再建 ・駒井田町会館は再建のための設計を終え、9月に解体し3月完成予定。
②力強い地域経済の再生	【生業再建】	□個々の事業所の再建支援 ・解体が進み利用できるテナント数も少なくなっている。今あるテナントを活用するためにも、なりわい補助金の範囲を拡大するべきでは。 □継続的な賑わいの創出の取組 □公共交通を活かした人の滞留の促進
③災害に負けないまちづくり	【避難対策】	□地域の安全性の向上に資する道路の整備 ・人吉西小学校に上がる東西のルートを整備してほしい。【駒井田町・城本町】 □垂直避難や車移動に留意した避難場所の確保 ・相談なしに避難ビルとして記されている。 →【市】垂直避難ができる高い建物の候補地として記載している。あくまでも候補地であり、今後ご相談する。正式にお願いする場合は、協定の取り交わし等を行う。低未利用地についても、特定の土地を指しているのではなく、今後の方向性を見定めていきたい。 ・避難ビル候補に対して町内会が単独で依頼をして良いか。 →【市】当面は市を通して調整する。 ・ペットの避難の受け入れ場所やルールの整理を。 □防災情報の伝達機能強化 □自助共助の避難体制の構築 ・事前に（普段から）避難の準備・備えが必要。 ・避難訓練は参加してもらえるような工夫が必要。夜の時間帯についても実働的な訓練が必要。 ・定期的に民生委員等が集まり、避難の計画（フローチャートで誰が誰を見るか）を決めている。一人暮らし高齢者はほぼ自宅で垂直避難を行う計画。【駒井田町】 ・町内会長が避難の呼びかけや支援の役割を担っているが、町内で役割分担をした方がよい。【城本町】 ・町内での組織体制の強化が必要。市内の良い事例は水平展開すべき。専門家と連携しては。 □地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成 □災害ゴミへの対応
	【復興まちづくり】	□青井地区のランドデザインの作成 ・中心市街地との連携が大切。使える土地を公園として整備しては。九日町は公費解体を行った土地も多いため、美しいまちをつくっていけるのでは。 □面的まちづくり手法を活用した安全で快適な市街地環境形成 □賑わいや交流・コミュニティの活性化につながる拠点機能の強化 ・複合利用ゾーンは民間と公共の共同利用や、協定により避難ビルとするなど考えられないか。 □球磨川を活かしたまちづくり
	【治水・土砂災害対策】	□流域治水プロジェクトの推進 ・山田川、鬼木川は堤防の決壊が懸念され、支流の堤防の強化を。 □小河川の氾濫対策の推進・促進 ・国道445号蓋掛け側溝の堆積土砂の早期点検と撤去を。【上青井町・下青井町】 →【市】道路河川課に情報を伝えており、進捗があれば報告する。 □急傾斜地対策

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.3

青井地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第4回・第5回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

青井地区の対象地区は、上青井町、中青井町、下青井町、駒井田町、城本町です。

◆第4回地区別懇談会

- 1 治水対策に関する国・県からの説明
- 2 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
・地区別懇談会の振り返りと情報提供
・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（更新案）について
- 3 地区ごとの話し合いと全体共有
・復興まちづくりの具体的なイメージ案について
- 4 今後の進め方について



◆第5回地区別懇談会

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
・地区別懇談会の振り返りと情報提供
・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（更新案）について
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
・復興まちづくりの具体的な取組み方向・イメージや手法案について
- 3 今後の進め方について



7月20日(火)、27日(火)両日18時半から、人吉東小学校体育館で開催しました。(参加人数:23名、14名)

復興まちづくり計画の策定に向けて

地区別懇談会での検討をもとに、10月頃を目途に具体的な復興まちづくりの取組をまとめた「復興まちづくり計画」を策定します。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
- ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただけます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
- 多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・9～10月の間に、概ね月1回（1～2回程度）の開催を予定しています。

次の開催予定：第6回 9月17日（金）18時30分より

次のテーマ予定：復興まちづくり計画（素案）等について

会場：東西コミュニティセンター

（注）地区別懇談会については、新型コロナウイルス感染症の状況等で、変更する場合があります。

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を示すものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくりに対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）
- ・本計画に基づき、関係者調整含めた精査や具体化検討を進め、段階的な実現をめざします。

【青井地区】これまでの地区別懇談会意見を踏まえた『復興まちづくりのイメージ（案）』について

～第4・5回懇談会の意見概要①～

黄色網掛け箇所が第4・5回地区別懇談会の参加者の主な意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

■幅員が狭く車が離合できない。

■駅周辺に観光（回遊）や避難に利用できる立体駐車場を。

■交通量が多く歩行者にとって危険、信号機があると良い。

■下青井町内会館再建について、市補助と県補助の重複利用ができないか。また、何かの機能を付け加えたりどれかの事業と組合せることで、補助が出て地元負担が少なくなるような支援策があれば教えてほしい。
■地元（町内会）負担も少なく、避難所としての機能を持った会館を別場所で建てることのできる区画整理以外の事業があれば、教えてほしい。

■解体が進んだ後の姿を実際に目で見てみないと、どういう感じなのかイメージできない。
■周辺が更地となり、ある程度の広さがあれば公園ぐらいできるかなと思えるかもしれないが、今の段階では考えられない。

■下青井町住民は、国道445号が狭いため拡幅を希望している。これまで大事故はないが、車の離合時は路側帯を使い、歩行者の肘や傘を引掛ける事が頻繁にある。是非拡幅し歩道も整備してほしい。
■門前町としての回遊やそぞろ歩きを考えると、門前町を形成する区間だけでも道路幅は広すぎない方がよい。
■蓮池周辺を門前町として考えると、袂橋を渡ろうとしても自動車がスピードを出してバンバン走ると、散策する楽しみに悪影響がある。
■歴史を大切にするのであれば、美しいモミジの木など切って拡幅することがないように。
■国道445号は以前からの都市計画決定のルートのため良いのか。北側の下林柳瀬線が国道ではダメなのか。

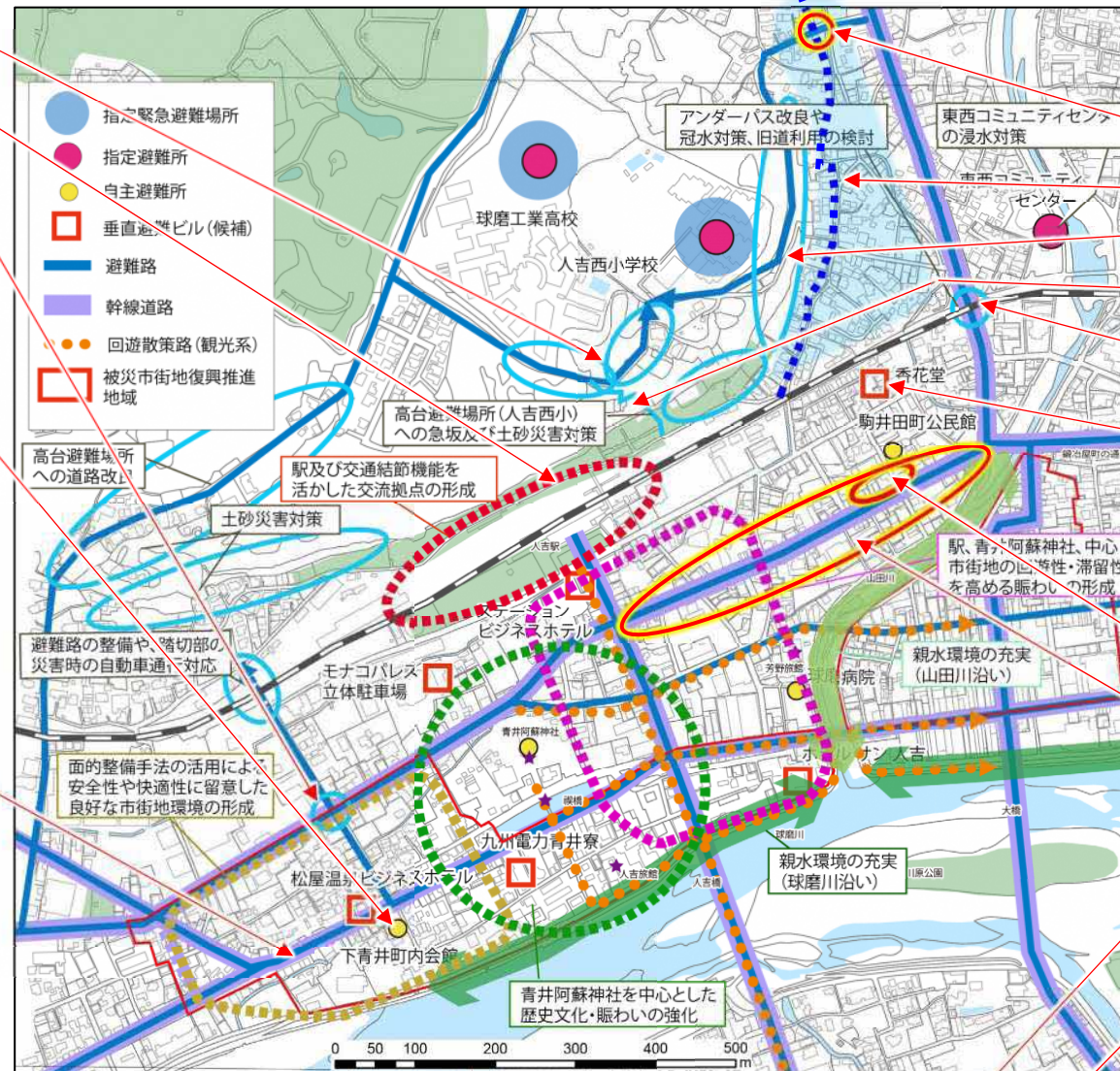
■青井阿蘇神社は人吉の宝。『青井の杜』ができれば、皆の憩いの場になる。杜はもっと広くてもよい。
■人吉は『歴史回廊』。相良藩の歴史があるまち。神社を中心とした門前町。国宝の青井阿蘇神社～人吉城址を回遊できる。

■正月初詣、おくんち祭り(10月)の時に参道を交通規制し、露店が出て歩行者に開放している。
■国道445号が広くなれば、週末等に周辺を開放し、『戸板市』のような催しがしやすくなる。風情があり、着の身着のまま来て楽しめるようになれば、地域住民も観光客の皆が楽しめる。

■袂橋が壊れたままである。袂橋は神社・地区・観光客にとっても象徴であり、観光名所でもあるので、官民が連携して早く復旧できないか。

■青井地区には子供が少ない。川の近くに子供が遊べる公園（芝生、滑り台等の遊具）があればと思う。ファミリー世代が住みたいと思うまちづくりを望む。
■椅子があれば高齢者も含めて腰かけて話ができる。憩いの場所になる。

商業・観光ゾーン（歴史文化・観光拠点に隣接する商業地として、生業再建と賑わい強化）
沿道商業ゾーン（幹線道路沿道の既存の商業・業務機能を維持）
生業・居住共存ゾーン（国道整備と併せ、日常生活サービス店舗（低層階）と都市型住居（マンション）を立地誘導）
居住ゾーン（低地から高台へ換地により戸建て住宅等の安全性を向上）
複合利用ゾーン（公共施設、ビジネスインキュベータ支援施設、都市型住居など低層住居以外の複合機能を導入）



青井地区は、中心地の一翼として、くらしの再建や避難対策とともに、青井阿蘇神社を中心とした歴史文化を活かした賑わい形成の方策を中心に検討を進めています。

■浸水しないか不安。

■御溝川が溢れ、浸水しやすい。

■土砂災害の危険性あり。

■最短距離で村山台地に上がれると良い。

■アンダーパスは浸水リスクを考えれば、早期に改善すべきではないか。

■香花堂に去年120人が避難したと聞いている。避難先ということを皆が認識したので、次にはもっと多くの人が集まるかもしれない。
■来訪者の避難場所をどうするか、住民と分ける必要があるのでは。
■市としては、一時避難場所の数を増やす方向である。
■町内で「自主避難所の覚書」を作成中。【駒井田町】
■各町内で、避難場所や避難に仕方など具体的に考えていく必要がある。そのための支援もお願いしたい。

■飲食店ができ始めている（寿司、イタリアンなど）。

■街路樹の剪定等が行われておらず、廃れた印象がある。
■夜間は暗く、歩行に危険性があり、早めに整備すべき。

■青井阿蘇神社楼門前に、広めのスペースがあれば良い。見物客が集まる場所が少ない。参拝者も通りにくそう、もったいない。

■国道445号沿いの労働金庫跡周辺は青井阿蘇神社や高野寺にも近く、イベント広場としてうってつけではないか。
■スペースがあれば色々なイベント（トラック朝市など）ができる。自由に使えるようであればうれしい。

■地区の歴史文化を踏まえ、神様の前のまち「門前町」のイメージで統一してはどうか。
■「人吉温泉女将の会」では、10年以上前から浴衣での散策という発想があった。宿泊客に夕飯後（まだ少し明るく寝る時間ではないが、浴衣姿になっている）下駄を貸出し、「カランコロ」と市内や川沿いを散策してもらう。ただし、川べりを少し明るくする照明は必要。早めにチェックインして浴衣姿で別の銭湯へ行くような発想。

■青井阿蘇神社から球磨川が見えるよう、眺望を妨げない工夫が必要。高い建物は建せず、モゾカタウンのような店舗が並ぶ、良好な景観形成に留意した店舗や住居が望まれる。

■青井阿蘇神社駐車場から球磨川へのルートを見ると、例示以外の回遊散策ルートもある。人吉旅館表側の道も、散策路としての整備が有効である。散策路に資するものを加えることで、補助金や再建支援につながると良い。

■青井阿蘇神社から球磨川の眺め、川へのルートを明確にする。現状は迷う人が多い。
■きれいに整備し、ライトアップし、散策や川を眺められる場とする。滞留時間も長くゆっくりくつろげ、眺めが良く、せせらぎの音を聞き夕涼みできるようにするのが良いのではないかと。

■国道445号周辺の景観を壊さない所では、避難可能な高い建物がある町並みが良いのではないかと。

